



地域自殺対策緊急強化基金

— 継続と拡充を求める要望書提出を機に考える —

先日から「復興予算が被災地以外に使われている」との指摘が報道され、政府においてあらためて精査が行われようとしています。これにより、「地域自殺対策緊急強化基金」(以下「基金」)が精査の対象になる可能性があります。「基金」は、都道府県・市町村の対策や民間団体の活動を支援し、「地域における自殺対策力」を強化するものです。都道府県、市区町村、民間団体への財政支援が不安定なものになると、手探りで推進しつつある地域での活動の基盤が揺らぐこととなります。

そうした状況のなかで、当センターが所属する「自殺対策全国民間ネットワーク」が、「自殺のない社会づくり市区町村会」との連名により、基金の継続と拡充を求める緊急の要望書を与党に提出しました。

当センター内でも様々な意見が出されました。その中で改めて確認したことは、活動の財源が安定することが大切だということです。基金に頼った運営では、必ず来る基金終了の際に活動が止まってしまう可能性があります。一度開設した窓口を閉じるわけにはいきません。苦悩を抱える当事者の方々をさらに苦しめるようなことはできません。

幸い、現時点では当センターの活動の財源は、会費や寄付金等によって確保することができています。ひとえに皆さまのご厚情とご協力のおかげです。しかし、今後行政からの助成事業や委託事業を積極的におこなっていくことになれば、活動の財源の中で基金が占める割合が増えていく可能性は十分あります。その際には、今回確認したことを思い出し、決して財源が枯渇することのないよう、慎重に進めていくことが必要です。同時に、皆さまに継続的にご協力いただけるように、今後も活動及び情報提供等について、より一層努力していきたいと考えています。

(N.Y.)

電話相談事業充実のために、 備品を購入しました！

当センターでは、毎週金曜日と土曜日に電話相談を開設しています。数名のボランティアが数時間ごとの枠を担当し、午後7時から翌朝5時半まで相談を受け付けています。

一本の電話の時間はさまざまで、数分の場合もあれば、数時間に及ぶ場合もあります。

相談の内容は9割以上の方が「死にたい」という気持ちを訴えられる深刻なものです。相談員は、どんな深刻な内容であろうとも、逃げ出さずに、最後までそばにしようとすることを心がけながら、一本一本の電話を真剣にとり続けています。

時には緊張のあまり、体が硬直してしまい、肩や腰など体に不調を感じることもあります。また、電波状態の悪さから相談者の電話の声が遠く、会話ができずに大変困ることもあります。

そうした相談受付環境を少しでも改善するため、この度、相談員が使用する椅子と、電話受信の際に使用するヘッドセットを購入いたしました。椅子は4,990円のを4脚。ヘッドセットは29,085円のを4セットです。高価なものですが、このことで相談員の負担が軽くなり、より集中して相談者に向き合うことができることと思います。今後もさらに環境の充実をはかり、よりよい相談受付環境をつくります。

(N.Y.)

椅子は今までのものよりもクッション性が高くなり、長時間座っていても疲れにくくなりました。
また、ヘッドセットを使用することで、雑音が入りにくくなり、より集中しやすくなりました！





「わたし」と「あなた」

昨年の10月も終わりに近づいたある日、仮設住宅を訪問し始めて、まだ間もない頃のこと。

「ほら、雪虫」

とつぜん人差し指を突き出されて当惑した。

指先をよく見ると、白い綿に包まれたような小さな羽虫が乗っている。この虫が飛び始めると、じきに雪が降り始めるのだそうだ。

人差し指を突き出す彼女の姿は、どこか遠方からのボランティアをからかっているようでもあった。

しばらく仮設住宅を飛んでいる雪虫と一緒に眺めていると、その女性は、「ボランティアさん、遠いところからありがとうね」と小さな声で言ってくれた。すこしだけ気持ちが触れあったような気がした反面、その言葉の裏には、どこか「ボランティア」と「被災者」という立場の違いを感じさせるような響きがあった。

私たちは、相手の方が「被災者だから」関わりを持とうとしているわけではない。

「いま、目の前で苦悩を抱えている人。苦悩のあまり、ひとりぼっちだと感じている人」
そういう人に関わりたと思って活動をしている。時として、同じく苦悩を抱え得る「わたし」と「あなた」という対等な関係のなかで、関わりを持ちたいと願っている。

それは、訪問活動に限らず、当相談センターで、電話を受けるときも同じだ。

相手の方が「うつ病患者だから」、「被害者だから」、「高齢者だから」というような枠組みで、関わりを持とうとしているわけではない。

苦悩の向こう側や、その周辺にある事柄よりも、いま目の前にいる「その人」のありのままの苦悩を受け取ることで、苦悩が和らぐことをめざしている。

雪虫のことを教えてくれた女性とは、結局それきりになってしまった。

果たしてあの時、「あなた」と「わたし」という関わり方ができていたのだろうか。

今年も、雪虫が飛びはじめた東北で、あの時のことを考えている。

(ボランティア2期生 A.C.)

今月のことば

人間の価値とは 何を禁じるかでは決まらない
何を否定し 何を拒み 排除するかでもありません
むしろ何を受け入れるかで決まるのでは？

(映画『ショコラ』ラッセ・ハルストレム監督)

活動報告

- 9月期電話相談件数…131件 (無言5件、よりそいホットライン担当37件を含む)
- 相談活動委員会
グループ研修 10月15日(月)10名、10月18日(木)10名
- 広報・発信委員会
委員会会議 10月10日(水)6名
- グリーフサポート委員会
語りあう会 10月11日(木)(参加者2名、スタッフ8名)
研修会補講 10月25日(木)8名



寄付ご協力一覧 (敬称略・順不同) 2012年10月1日～10月31日

浄土真宗本願寺派
株式会社エクザム
西崎英子
田嶋弘典
小杉瑞穂
一関市・正光寺(北畠浄春)
平野批美
横田芳正
馬立願成寺
葛野洋明

ご協力にこころより感謝いたします

●支援方法

賛助会員 年間1口3,000円

寄付 金額は問いません

法人会員 年間1口10,000円

●会費・寄付金振り込み先

郵便振替 ゆうちょ銀行[振替口座] 00950-0-271875

他行間 ゆうちょ銀行[当座] ^{ゼロキョウキョウ}〇九九店 0271875

●模造紙、ホワイトボードマーカーなど、現物でのご寄付も大変助かります。

Sotto コメント

先日、京都東山の永観堂に紅葉狩りにいきました。本堂に安置されている阿弥陀如来像は「みかえり阿弥陀」とよばれています。後ろを振り返る姿は、遅れる者を待つ姿勢を表現したものだそうです。お顔をしっかりと拝見するために、後ろにまわってお参りました。(N.Y.)

発行 2012年11月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp